

宝林宝樹 (8)

「人は、本物しか知らないと偽物はすぐにわかる。しかし偽物しか知らないで、本物を本物だと分らずに偽物だと思う。本物との出遇いを大切にしてください」大学生の時に仏教を学ぶ心得を恩師に教わった言葉です。本物を知るといふことでいえば、骨董品の価値を勉強するには、どんなに小さいかけらでも良いので本物をずっと触ることから始まるのだそうです。なでたり、かじったりしてその物を肌身離さず持つておく。そうすると偽物を触れば直ぐに偽物と判るようになります。なるほどと判ってはいるのですが、私のもの見方といえは、私の都合に合うことばかりを大切に、それで良いのだと、しあわせだと思っっているのです。私は、ご門徒さんに「しあわせ」とは「師合わせ」「仕合わせ」ですよと、よく話をします。この人こそ師だと思える人にめぐり逢ったり、自分が本気で仕えることに出合えるのをしあわせというのです。大切な誰かのためであれば、心からの喜びを感じ、本気で頑張れるものでしょう。結局しあわせ探しは、自分探しなのでしよう。本物との出遇いを大切に。そして本物が本物だと喜べる皆さんであっていただきたいと願っております。

